

第6章 小学生アンケート結果

6.1 調査概要

小学生アンケートは、市内の小学校（19校、9,360人（平成19年10月1日現在））の中から、緑のカーテンを実施した以下の5つの小学校を抽出して行った。

| | 田無 小学校 | 保谷第一 小学校 | 東伏見 小学校 | 碧山 小学校 | けやき 小学校 | 合計 |
|-------------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------|
| 対象者 | 5年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 5年生 | - |
| サンプル数 | 97人 | 65人 | 88人 | 86人 | 126人 | 462人 |
| 調査期間 （実施年は 平成19年） | 10月18日 ～ 11月5日 | 10月18日 ～ 11月5日 | 10月18日 ～ 11月5日 | 10月18日 ～ 11月5日 | 10月18日 ～ 11月6日 | - |
| 調査方法 | 授業中に実施 | | | | | - |
| 有効回答数 （割合） | 89 （91.8%） | 65 （100%） | 88 （100%） | 85 （98.8%） | 120 （95.2%） | 447 （96.8%） |

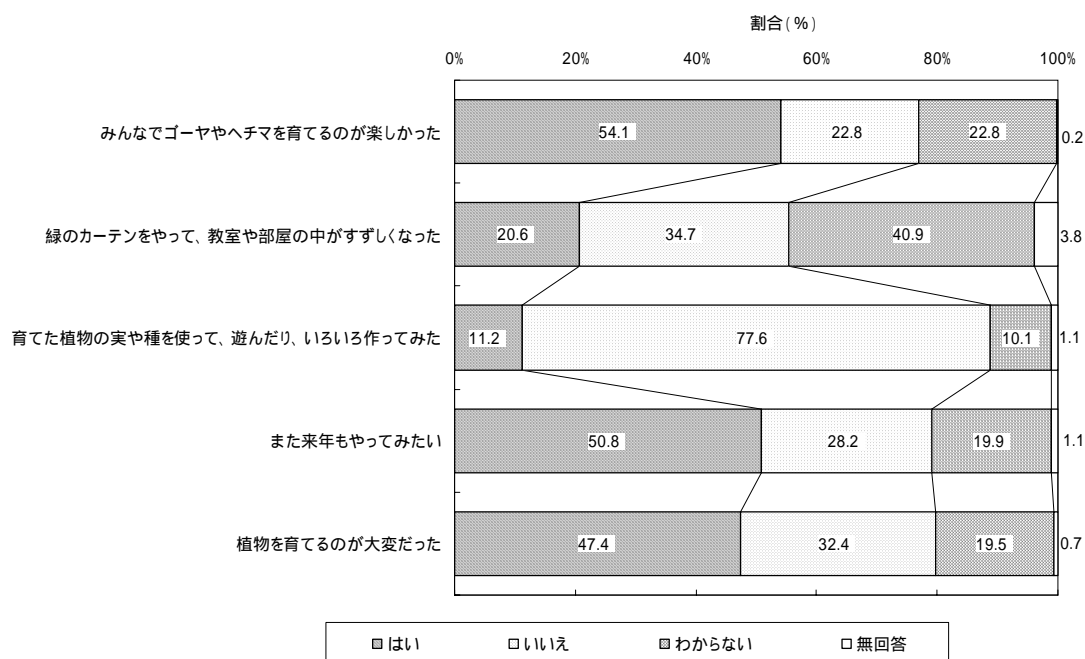
6.2 調査結果

回答総数（n）は、明記されているもの以外はすべて447である。割合（各回答の百分率）はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入したものである。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。

6.2.1 緑のカーテンについて（問1）

緑のカーテンを行うことそのものについては、半数近く（47.4%）が「植物を育てるのが大変だった」と回答しているものの、半数以上が「みんなでゴーヤやヘチマを育てるのが楽しかった」（54.1%）、「また来年もやってみたい」（50.8%）と回答している。

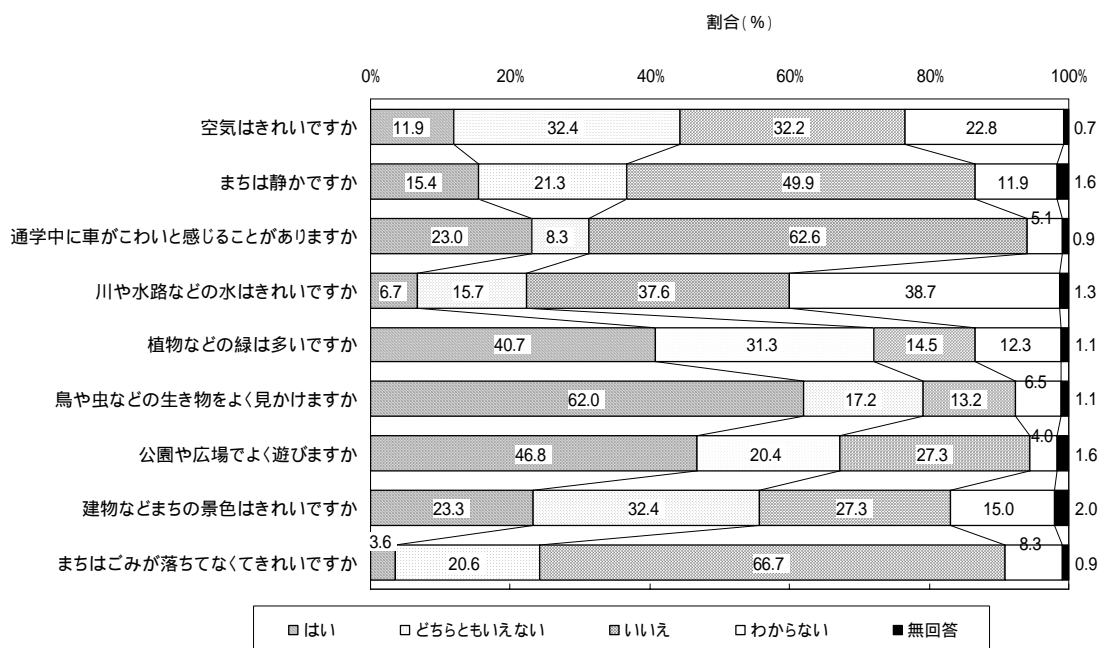
「育てた植物の実や種を使って、遊んだり、いろいろ作ってみた」といった一歩進んだ取り組みを実施したのは11.2%にとどまっている。また、「緑のカーテンをやって、教室や部屋の中が涼しくなった」に対して「はい」と回答した小学生も20.6%と「いいえ」（34.7%）より少数にとどまっている。



6.2.2 通学路や家のまわりの環境（問2）

「植物などの緑は多いですか」「鳥や虫などの生き物をよく見かけますか」「公園や広場でよく遊びますか」の3項目については、「はい」と回答した人が「いいえ」を上回っていた。また、「通学中に車がこわいと感じることがありますか」では「いいえ」が「はい」を上回っていた。

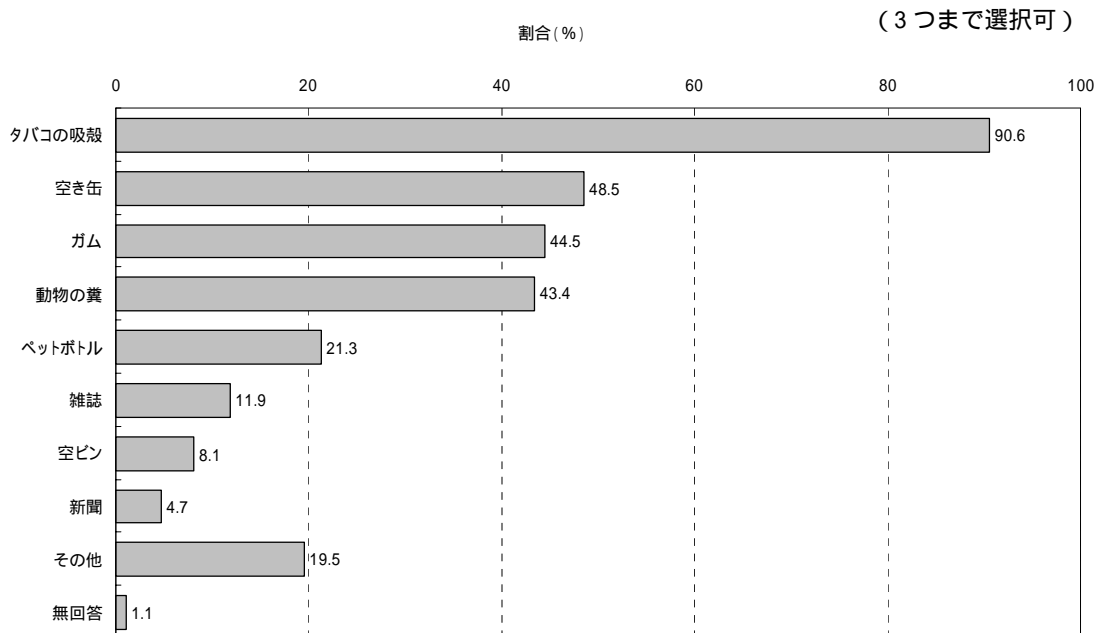
それ以外の質問項目については、環境に対し満足をしていない傾向にあり、特に「まちはごみが落ちていなくてきれいですか」の項目については、3分の2が「いいえ」と回答していた。



6.2.3 ゴミやポイ捨て（問3）

多いと思うゴミの種類

「タバコの吸殻」と回答した人が最も多く、（90.6%）、「空き缶」（48.5%）、「ガム」（44.5%）、「動物の糞」（43.4%）と続いている。



その他の回答

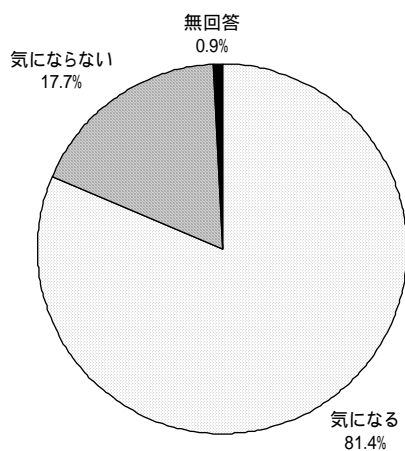
その他として自由記入のあった回答については、お菓子の袋が27人と多く、次いでビニール袋（6人）、紙屑（5人）、ティッシュ（4人）となっている。また、食べ物の包装ゴミやスーパー・コンビニの袋等も回答数が多くみられた。

| 回答 | 回答数 |
|--------------|-----|
| お菓子の袋 | 27 |
| ビニール袋 | 6 |
| 紙屑 | 5 |
| ティッシュ | 4 |
| 葉っぱなど | 3 |
| 袋 | 3 |
| 食べ物のゴミ | 3 |
| よく分からないもの | 3 |
| スーパーの袋 | 3 |
| お菓子や食べ物のゴミ | 3 |
| コンビニの袋 | 2 |
| ゴミ袋 | 2 |
| 本 | 1 |
| 道路に落ちている生ゴミ | 1 |
| 動物の毛やお菓子の包み紙 | 1 |
| 虫の死骸 | 1 |
| 誰かが吐いたような物 | 1 |

| 回答 | 回答数 |
|----------------------------|-----|
| 唾 | 1 |
| 粗大ゴミ | 1 |
| 食べ物が入っていた容器 | 1 |
| 紙屑やお菓子の袋やプラスチックゴミ | 1 |
| 紙やアイスクリームの棒 | 1 |
| 紙 | 1 |
| 傘、弁当箱のカラ、ビニール、カードパックを開けたゴミ | 1 |
| 傘 | 1 |
| 靴下 | 1 |
| 靴、紙パック、ウィダーの袋 | 1 |
| 家庭ゴミ | 1 |
| プラスチック容器 | 1 |
| チラシ | 1 |
| カロリーメイトの箱 | 1 |
| お弁当の入れ物など | 1 |
| お弁当の食べ残しやお弁当のカラ | 1 |

6.2.4 タバコのポイ捨て（問4）

8割以上が「気になる」と回答した。



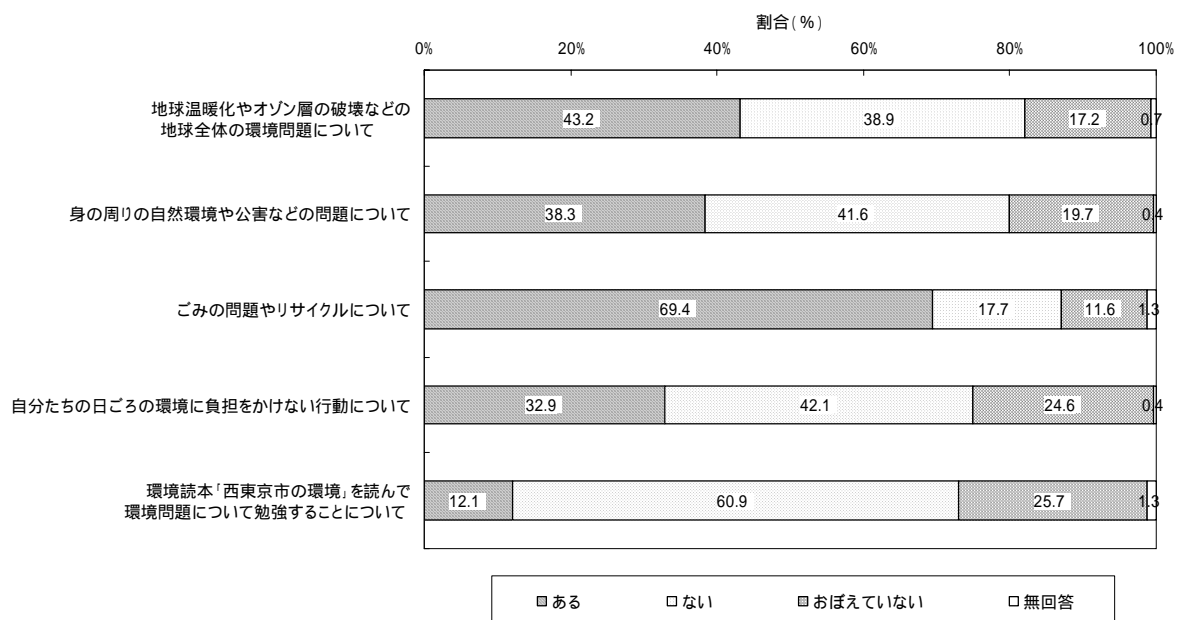
6.2.5 環境に関する授業（問5）

ほぼすべての小学生が、ごみ・リサイクル問題、地球温暖化問題に関する授業を受けたと回答していた。特に地球温暖化問題に関しては、釧路湿原や碧山森を取り上げた授業を受けたという回答が多く見られた。

6.2.6 家での環境教育（問6）

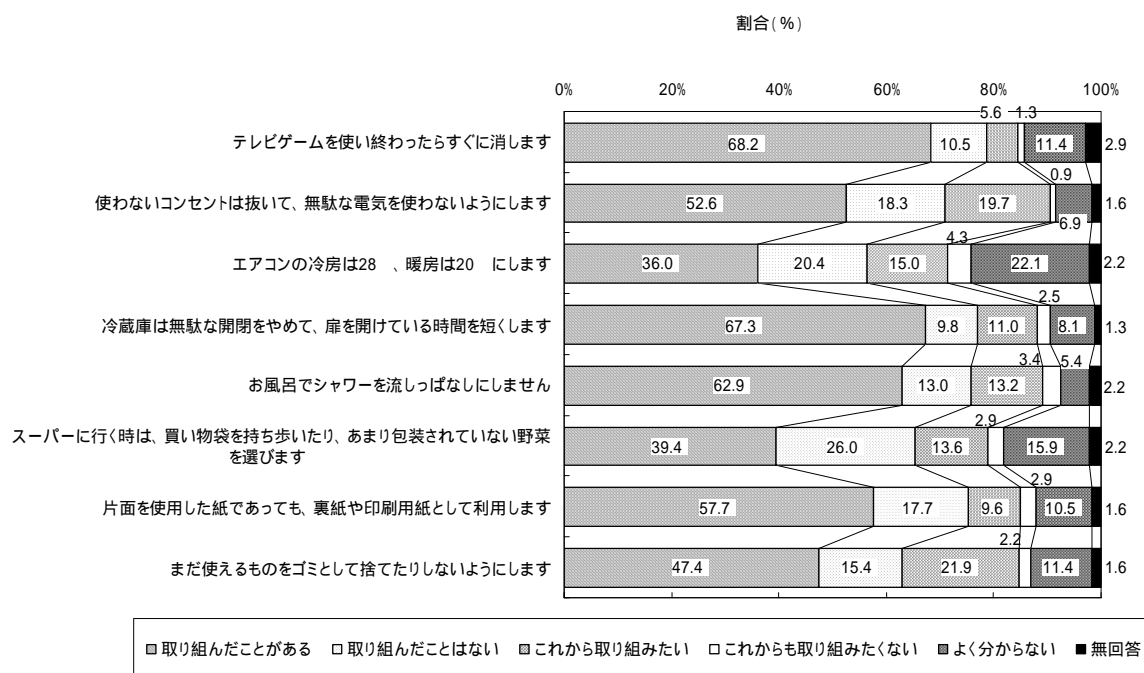
「ごみの問題やリサイクルについて」は、7割近くが「ある」と回答した。また、「地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球全体の環境問題について」も、「ある」という回答が「いいえ」を上回っていた。

「環境読本『西東京市の環境』を読んで環境問題について勉強すること」については、60.9%の人が「ない」と回答しており、「ある」と回答した人（12.1%）を大きく上回っていた。



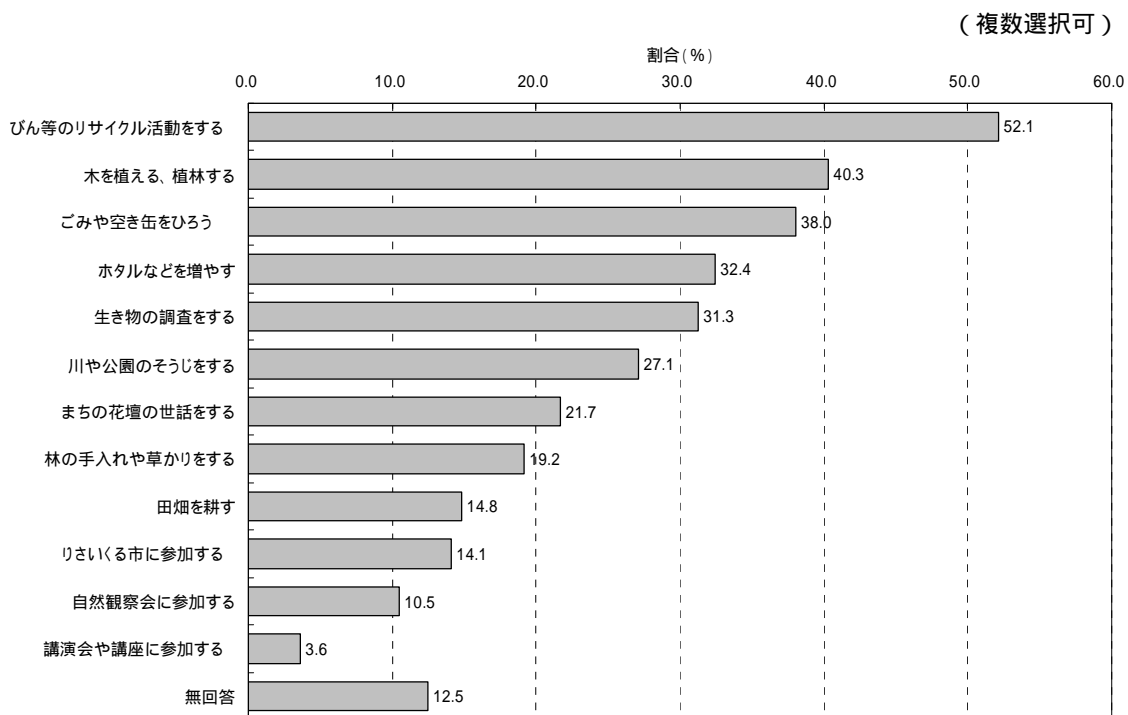
6.2.7 環境を守る活動への取り組み（問7）

「エアコンの冷房は28、暖房は20にします」、「スーパーに行く時は、買い物袋を持ち歩いたり、あまり包装されていない野菜を選びます」、「まだ使えるものをゴミとして捨てたりしないようにします」の3項目以外は、「取り組んだことがある」と回答した人が50%を超えていた。50%を超えていない3項目は、猛暑などの外的な現象や、小学生個人で判断できないこと（どれがまだ使えるものなのかなど）が原因と考えられる。



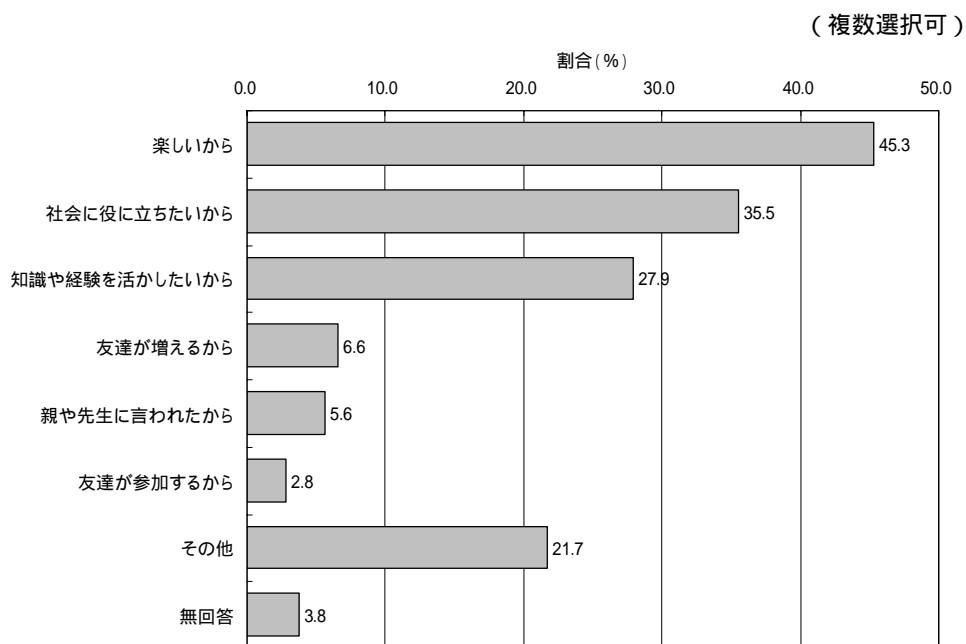
6.2.8 参加したい活動（問8）

「びん等のリサイクル活動をする」、「ごみや空き缶をひろう」といったごみ・リサイクルに関するもの、「木を植える、植林する」、「生き物の調査をする」、「ホタルなどを増やす」といった緑、生き物に関する活動に対する割合が高かった。一方、「講演会や講座に参加する」という体験型ではないものの割合は3.6%にとどまった。



6.2.9 参加したいと思った理由（問9）

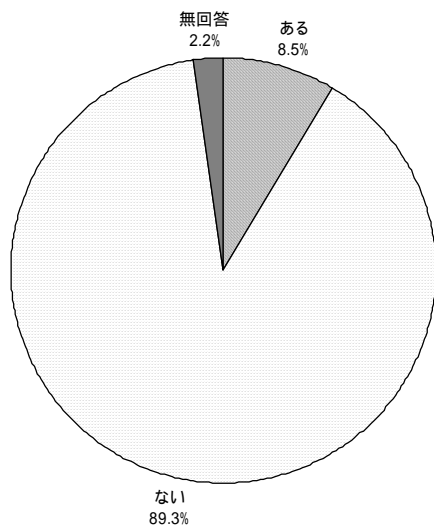
「楽しいから」と回答した人が45.3%と最も多く、「社会に役に立ちたいから」(35.5%)、「知識や経験を活かしたいから」(27.9%)と続いている。



(n=391)

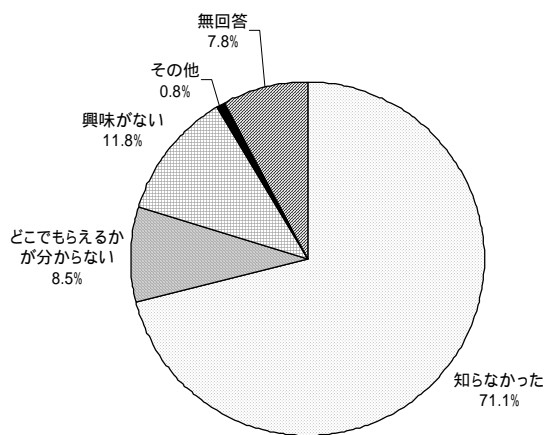
6.2.10 散策マップの利用（問 10）

89.3%の人が「ない」と回答し、「ある」と答えた人は8.5%であった。



6.2.11 散策マップを使ったことのない理由（問 11）

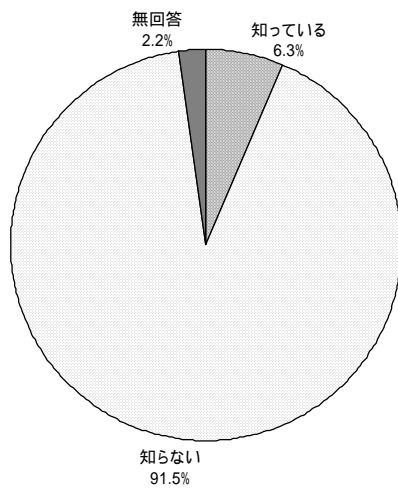
「知らなかった」という回答が最も多く（71.1%）、「興味がない」（11.8%）、「どこでもらえるかが分からない」（8.5%）と続いている。



(n=399)

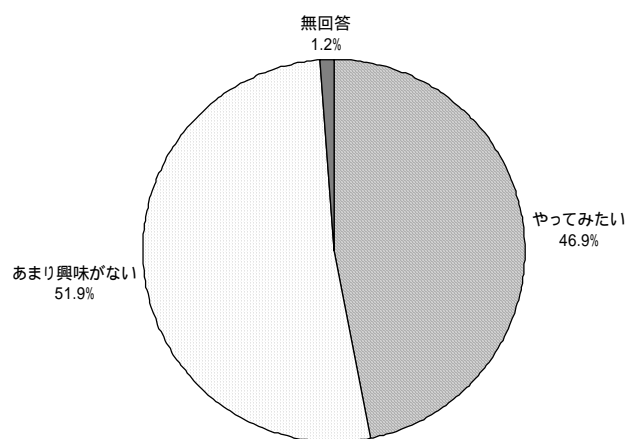
6.2.12 キッズ ISO の認知度 (問 12)

91.5%の人が知らないと回答しており、認知度が低いことが分かった。



6.2.13 キッズ ISO への関心 (問 13)

「あまり興味がない」という回答 (51.9%) が、「やってみたい」(46.9%) を上回っていた。



(n=409)